

キャラクター名	プレイヤー名
上鳴電気	

シンドローム	ブラックドッグ	ワークス	FHチルドレンC	カヴァー	UGNチルドレン
	ブラックドッグ				
オプション		年齢	高1	性別	男
覚醒	無知	衝動	殺戮	初期侵食率	33 %
出自	犯罪者の子	経験	大成功	邂逅	欲望/殺戮

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	35
肉体	4		0			4	行動値	11
感覚	2		0			2	(非装備時)	11
精神	2	1	0	4		7	戦闘移動	16
社会	0		0	1		1	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	6		交渉		
回避	1		知覚			意志	2		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	FH	4
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ブルー・ジェット	RC	11r+6	-	34		単体/雷の加護前提: 雷の槍+雷光撃
レッド・スプライト	RC	10r+6	-	34		シーン(選択)/雷の加護前提: 雷の槍+雷光撃+フラッシングプラズマ
ブルー・ジェットOF	RC	12r+6	-	38		単体/雷の加護前提: 雷の槍+雷光撃
レッド・スプライトOF	RC	12r+6	-	38		シーン(選択)/雷の加護前提: 雷の槍+雷光撃+フラッシングプラズマ

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
コネ: FH幹部		ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費	
破壊の子《チルドレン》	P	N			
両親	P 親近感	N 恥辱			
耳郎響香/裏切った相手	P 親近感	N 恐怖			
心操人使	P 庇護	N 憎悪			
ブチ転がしたFH構成員	P 遺志	N 憎悪			
瀬呂範太	P 同情	N 疎外感			
爆豪勝己	P 慈愛	N 隔意			
最大財産P:	2	残り財産P:	1		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
雷の加護	5	2	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 判定D+Lv個								
コンセントレイト: ブラックドッグ	2	2	メジャー	-	-	シ	-	
効果: C値-Lv(↓7)								
雷の槍	8	4	メジャー	視界	-	<RC>対	-	
効果: 射撃/攻撃力+[Lv*2+4]、組合D-1個								
雷光撃	7	2	メジャー	-	-	シ対	-	
効果: 攻撃力+[Lv*2]								
紫電一閃	1	6	メジャー	-	-	シ対	リミット	
効果: 《雷の槍》C値-1(↓6)、1S1回								
フラッシングプラズマ	4	4	メジャー	視界	シーン選<RC>対	ピュア		
効果: 対象変更、判定D-[5-Lv](↓0)個								
セキュリティカット	1	1	メジャー	至近	※	自動	-	
効果: 電子系セキュリティ解除/<RC>								
電波障害	1	-	メジャー	視界	シーン	自動	-	
効果: 電波の攪乱遮断/<RC>								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

楽しいことしようぜ？

10歳(当時小学5年生)の時にUGNチルドレンとして養護施設から引き取られた。  
 チャージ+イナズマでチャージズマ。電撃を操ることに“極端に”特化した彼は変異種《イレギュラー》と呼ばれていた。  
 特異なレネゲイドを宿していると思われていた彼は「観察」と「保護」の目的のためにUGN雄英支部に属することとなる。

……というのは、表向きの話。  
 彼に名は無く、冠された称号は「IF」……何にでも成り得、それでいて何者でもない存在。  
 その称号には多くの意味が内包される。  
 同時に、彼はFH単独セル「IF(アイエフ)」のセルリーダーでもある。  
 ギランの子としてこの世に生を受けた彼に向けられる世間の目は冷たかった。  
 そんな彼を優しく受け入れたのが……FHだったのだ。  
 4歳の時には既にFHチルドレンとして馴染んでいた彼は発現した能力(チカラ)を組織の中で大きなものへと昇華していった。  
 才能を鋭利なものにしていく彼は次第に破壊の子《チルドレン》と呼ばれるようになる。  
 そして、4歳にして養護施設に入り盛大な工作活動を開始することとなる。  
 UGNに潜り込んだ彼は自らの“責務”を果たすべく、数多の情報を定期的にFHへ提供していた。

いざ就学すると、彼は自らの境遇に驚愕した。  
 彼は余りにも無知だったのだ。友情も、愛情も、彼にとっては全てが仮初だった。  
 だから“遊んだ”のだ。嘘の仮面を貼り付けて。